

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 種ヶ嶋 尚志

研究課題名	青年期アスリートの手段型競争心を規定する心理学的要因の解明
研究目的及び研究概要	●研究の目的と概要 本研究は、競技者が競争を自己成長の手段と捉える「手段型競争心」の形成メカニズムを解明することを目的とする。競技種目やレベルに応じた心理的要因を特定し、適応的な競争心育成のためのコーチング実践に貢献する基礎資料を提供する。 近年、スポーツ心理学において、競技者の心理状態がパフォーマンスに与える影響が注目されている。特に、競争を自己成長の機会と捉え、自身の能力向上に繋げる「手段型競争心」は、競技者の適応的な心理状態として重要視されている。 しかしながら、「手段型競争心」がどのように形成されるのか、そのメカニズムは未だ十分に解明されていない。競技種目やレベルによって、影響を与える心理的要因が異なる可能性も指摘されており、より詳細な検討が必要である。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	●研究実績の概要 研究の目的は、競技者の「手段型競争心」の形成要因を明らかにすることである。手段型競争心とは、競争を自己成長の手段と捉える心理状態であり、競技パフォーマンス向上に重要な役割を果たすと考えられている。研究論文「主将のリーダーシップがチームの動機づけやモラルに与える影響について」の研究結果から、競技者の「手段型競争心」の形成要因として考察できる点は以下の通りであった。 1. 主将のリーダーシップスタイル 主将の「技術指導」や「圧力」といったリーダーシップスタイルは、選手の競技意欲やモラルに影響を与え、「手段型競争心」の形成に寄与する可能性がある。特に、主将が模範を示し、チーム全体の技術向上を牽引するようなリーダーシップは、選手に「自身も努力すれば成長できる」という認識を促し、「手段型競争心」を育むと考えられる。 2. チームのモラル チームの一体感や目標達成への意識といったモラルは、競技成績に影響を与え、「手段型競争心」の形成を促進する可能性がある。高いモラルは、選手が互いに協力し、切磋琢磨する環境を生み出し、選手は競争を互いを高め合う機会と捉え、「手段型競争心」を育みやすいと考えられる。 3. 選手の自律性 自律性の高い選手は、主将からの「圧力」を肯定的に捉え、自身の成長に繋げる傾向があり、「手段型競争心」を育みやすいと考えられる。自律性の高い選手は、自身の課題を客観的に認識し、主体的に改善に取り組むことができ、競争を通じて自身の能力を高めようとする「手段型競争心」を育みやすいと考えられる。 これらの研究結果は、主将のリーダーシップスタイル、チームのモラル、そして選手の自律性が、競技者の「手段型競争心」の形成に影響を与える可能性を示唆している。今後の課題として、多種目間の競技心や成育歴による相違について競争心のマインド形成への影響性や、形成メカニズムのより詳細な影響性が明らかになっていないため、継続的に課題追及を行っていく。